

2003～2004年度
国際ロータリー第2640地区 I.M.第3組

INTERCITY MEETING



Lend a Hand

「新世代に手を貸そう」

第2640地区ガバナー 前 窪 貫 志
ゼネラルリーダー 亀 岡 弘

日時；2004年2月1日（日） 12：00～17：00

場所；和歌山県民文化会館

【参加クラブ】

和歌山R.C	和歌山東R.C	和歌山南R.C
和歌山東南R.C	和歌山西R.C	和歌山北R.C
和歌山中R.C	和歌山アゼリアR.C	和歌山城南R.C



ホストクラブ 和歌山城南ロータリークラブ

I.M.第3組 プ ロ グ ラ ム

【第1部 事前会議】

時 間	会 場	会 議 名	地区役員 / 委員長
12:00 ~ 12:20	小ホールB	登録受付	
12:20 ~ 13:20	大会議室	フレッシュ会員の集い	R情報・規定委員長 上野山英樹
	405号	ロータリーファミリー委員長会議	ゼネラルリーダー 亀岡 弘
	404号	ロータリー財団委員長会議	R財団部門委員長 岩本 行弘
	406号	米山記念奨学委員長会議	米山記念奨学委員長 河合 利晴

【第2部 全体会議】

時 間	要 項	担 当・その他
13:00 ~ 13:30	小ホールB 登録受付	
13:30 ~ 14:00	開 会 点 鐘 君が代・奉仕の理想斉唱 開会の挨拶 歓迎の挨拶 ガバナー挨拶 ゼネラルリーダー挨拶 来賓・地区役員紹介 地区委員紹介 来賓挨拶 参加クラブ出席報告	司会 I.M.S.A.A. 加百 正志 ホストクラブ会長 寺坂 雄次 ソングリーダー 川嶋 平和 I . M . 委員長 浦 武宏 ホストクラブ会長 寺坂 雄次 ガバナー 前窪 貫志 ゼネラルリーダー 亀岡 弘 ゼネラルリーダー 亀岡 弘 I . M . 委員長 浦 武宏 和歌山市市長 大橋 建一 登録委員長 中芝 康順
14:10 ~ 15:10	【パネルディスカッション】 テーマ 「新世代に手を貸そう」 パネリスト コーディネーター	パストガバナー 月山 和男 和歌山市立紀之川中学校校長 林 秀晃 和歌山市中学校PTA連合会会長 須佐真理子 ㈱オークワ専務取締役人事本部長 宇治 健一 和歌山城南ロータリークラブ 岡本 浩
15:20 ~ 16:40	【特別講演】 「学校と家庭と地域の役割」 教育評論家	尾木 直樹
16:40 ~ 17:00	閉会式 講 評 総評及び次回ホストクラブ紹介 次回ホストクラブ会長挨拶 閉会の挨拶 手に手つないで 点 鐘	司会 I.M.S.A.A. 加百 正志 ゼネラルリーダー 亀岡 弘 ガバナー 前窪 貫志 和歌山アエリアRC会長 磯本 博良 I . M . 副委員長 川崎 行彦 ソングリーダー 川嶋 平和 ホストクラブ会長 寺坂 雄次

(以上、敬称略)

第1部 事前会議

フレッシュ会員の集い

(5階大会議室)

【助言/指導者】	・第2640地区ガバナー ・パストガバナー ・ガバナー補佐 ・ガバナー補佐 ・ガバナー補佐 (R情報・規定委員長) ・地区代表幹事	前 窪 貫 志 堤 啓 治 植 田 努 大 平 洋 和 上野山 英 樹 前 田 耕 道
【司会/記録】	小笠原 廣久/原戸 俊和 (和歌山城南R.C)	

~言いたい放題ロータリー~

入会して感じる事、疑問に思う事、こんな機会に言いたいこと等、フレッシュ会員38名が5グループに分かれ、助言/指導者を交えフリーディスカッションを行った。その後各グループ毎に討議内容を発表し、ご指導をいただきました。



(第1グループ)

- ・転勤での引継ぎ事項、親の薦め、夫がロータリアンであった等、入会の動機は様々であるが、仕事抜きにて知人、友人、色々な方とのお付き合いができる。

(第2グループ)

- ・ニコニコ箱の運営(考え方、封筒)が、各クラブにて違っている。
- ・奉仕は「身体(汗)」で行うのか「金」で行うのか?...

(第3グループ)

- ・ロータリーそのものの活動が分からない(何をやるのか?)
- ・市内9クラブとの連携強化及び、女性会員の増強が必要と感じる。

(第4グループ)

- ・活動が自己目的化されている、米山記念奨学基金の使い方が分からない等、色々と疑問もあるが、「自分の仕事を極めることが、ロータリーの奉仕につながる」のでは。

(第5グループ)

- ・色々な方とお付き合いができ、ロータリーに入会して良かった。
- ・例会出席が仕事に差し支える。例会は聞くばかりで、もっと発言したい。

(植田ガバナー補佐)

- ・フレッシュ会員のあり方として、疑問に思っていることをもっとクラブにぶつけることが、クラブの発展に繋がる。

(大平ガバナー補佐)

- ・何故、ロータリーに入会したのか、目標を明確にしなければ長続きしない。
- ・自分達のクラブが、他に負けない特長(目的)を持つことが大事である。

(堤パストガバナー)

- ・人間作りによる実践哲学がロータリーである。

(前田地区代表幹事)

- ・ロータリーを理解するには、入会して2～3年が必要。(学ぶより慣れる)
- ・今後、女性会員を増強しなければやっていけない時代がくる。
- ・市内9クラブの連携に関しては、月1回会合を開催し連携強化を図っている。

(前窪ガバナー)

- ・ロータリーは汗と金の両方にて奉仕し、人作り(世界平和)が一番大事である。
- ・目標を高く持って、自分のできる範囲にて活動して欲しい。
(2640地区の2912名が、それぞれ2912通りのロータリーがある)

ロータリーファミリー委員長会議 (405号室)

- 【助言/指導者】** ・ゼネラルリーダー **亀岡 弘**
【司会/記録】 **稲田 穰治 / 八木 茂** (和歌山城南R.C)

(亀岡ゼネラルリーダー)

- ・ロータリー活動を行うには、その配偶者や子女の理解が重要であり、ロータリーを支える両輪である。親睦と奉仕を考えた時、奉仕が先行し、親睦の精神が薄れてきている。これがロータリーの魅力を薄れさせ、ひいては会員の減少につながっているのでは・・・
- ・又、今後のロータリー活動を行うにあたっては、ロータリーファミリーや物故会員に対する思いやりの活動の機会を各クラブで行って欲しい。



- (和歌山中) 当クラブでは、4月に元会員の追悼例会を計画中。
(和歌山城南) 今後の活動の参考にしていきたい。

(亀岡ゼネラルリーダー)

- ・ロータリー会員以外の例会参加について、ご検討できないでしょうか？
これは、会員以外の人をロータリーの例会に参加してもらう事で、ロータリーを理解してもらい身近に感じてもらう事により、将来のロータリアンになっていただくと言う活動です。

- (和歌山東南) 入会を前提に例会参加をしてもらい、数人の入会者があった。

その他、退会者についてクラブへの復帰をさせる為に、ゴルフコンペに誘った活動や、和歌山アゼリアからは、退会者を見事復帰させた成功事例等も紹介され、大変有意義な会議となりました。

ロータリー財団委員長会議

(404号室)

- 【助言／指導者】
- ・ロータリー財団部門委員長 岩本行弘
 - ・ロータリー財団学友会委員長 藤原重行
 - ・ポリオプラス副委員長 川崎行彦
- 【司会／記録】 野村 三夫／根岸 憲一郎 (和歌山城南R.C)



(岩本委員長)

- ・ロータリー財団にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本日は、昨年の地区協議会やクラブ財団委員長会議にて質問がありました「寄付金」についてお話しさせていただきます。
- ・皆様方の寄付金は、東京の国際ロータリー日本事務局に、送金明細書と共に送られます。
- ・エバンストンのロータリー財団本部では、送金明細書に基き、会員

全員をID番号にて管理しています。(WEBサイトより寄付記録が確認できます。)

- ・地区財団活動資金もロータリー財団本部にて管理されています。

- ・次に、国際親善奨学生の募集についてですが、現在、募集要項に基きポスターを作成中です。2005～06年度の奨学生の推薦を、4月17日までをお願い致します。
- ・推薦は各クラブの裁量にお任せしますが、無理に推薦される必要はありません。又、6ヶ月文化研修の為の国際親善奨学金は、原則として英語以外の語学としています。
- ・派遣だけではなく、海外から当地区に留学する国際親善奨学生も、現在2名受け入れておりますし、GSEは4月からブラジル4640地区へ4名の団員を派遣する予定で、現在着々と準備を進めております。

(川崎ポリオプラス副委員長)

- ・各クラブの委員長の皆様方には、ポリオプラスの意義・役割をご理解いただき、各クラブにてご説明していただきますようお願い致します。
- ・ポリオの発生状況は、1/25現在、682名(ナイジェリア 350名、インド 220名、パキスタン 99名)であり、これらの状況はWHOのホームページでもご覧いただけます。ポリオ撲滅に向けて引き続きご協力の程、お願い致します。

(藤原学友会委員長)

- ・学友会の役割は主に、学友会名簿の作成、奨学生の帰国報告会の開催、学友冊子の編集、卓話の斡旋です。特に11月のロータリー月間では15件の卓話を斡旋させていただきました。2～3月の間でも結構ですので、依頼があれば斡旋(調整)させていただきます。
- ・5月の国際大会にて、5/22に4地区合同のプレコンベンションを開催する予定です。
- ・学友関係者がホームページを立ち上げて、ロータリーのPRを行っており、又、現在も多くの方が海外にて頑張っております。引き続きよろしくお願い致します。

米山記念奨学委員長会議

(406号室)

- 【助言／指導者】 ・米山記念奨学部門カウンセラー 大丸昌穂
・米山記念奨学部門委員長 河合利晴
・米山学友会委員長 田村弘
- 【司会／記録】 嶋本 嘉克／阪井 敬朗（和歌山城南R.C）

（大丸カウンセラー）

- ・米山記念奨学にご理解，ご協力をいただいております。しかしながら、会員数の減少等により奨学会寄付が、15.9億円と、前年比-6%の減少となっています。
- ・新表彰制度を設け、米山功労者が30万円から10万円以上となりました。
- ・2004年度、2640地区の奨学生割当は33名です。
- ・地区目標は会員1人あたり2万円の達成を希望しておりますので、ご協力いただきますようお願い致します。



引き続き、河合委員長より「今年の地区活動」について報告がありました。

- ・7月 南紀ロータリークラブ親善訪問
- ・8月 大学訪問，米山カウンセラーセミナー開催，米山奨学部門委員長会議開催
- ・9月 米山梅吉記念館訪問，日韓親善会議開催
- ・10月 米山月間スタート 11月 国際交流会開催 12月 米山総会開催
- ・2月 新規米山奨学生面接試験，米山奨学期間終了者歡送会（予定）

（田村委員長）

- ・12/7の米山学友総会にて、2640地区 2004年米山学友会会長に「張 傳士」氏（台湾出身，和歌山大学）が選出されました。
- ・最近は中国人が多くなってきておりますが、学友会の活動も世界的に活発な活動を行っており、今後とも応援していただきたくお願い致します。

（河合委員長）

- ・奨学生面接試験を受ける留学生の中に、ロータリーを知らない学生が多く、事前のインフォメーションに力を入れていきたい。
- ・米山奨学金は国内最大であり、国ではなく会員の寄付によって成り立っている事を、奨学生に話しているので、もっと各クラブでも浸透させて欲しい。

その他、「日本語があまり話せない奨学生がいて、カウンセラーが苦労している」「当地区には東アジア系（特に中国）が多いのは何故か？」等、様々な意見交換が行われました。

第2部 全体会議

【開会】

【点鐘】

【君が代・奉仕の理想 斉唱】

司会 I.M. S.A.A.

ホストクラブ会長

ソングリーダー

加 百 正 志

寺 坂 雄 次

川 嶋 平 和



【開会の挨拶】

I . M . 実行委員長 浦 武 宏

I . M . 3組の開催にあたり、大橋和歌山市長、山口教育委員長、前窪ガバナー他多数の方々にご参加いただき、誠にありがとうございます。新世代の育成にあたり、学校、家庭、地域が三位一体にて取り組む必要性を感じております。「Lend a Hand」のテーマを受け継いで「新世代に手を貸そう」をテーマにパネルディスカッション、特別講演を開催致します。



【歓迎の挨拶】

ホストクラブ会長 寺 坂 雄 次



I . M . 3組開催にあたり、亀岡ゼネラルリーダのご指導のもと、クラブメンバー全員が一丸となって取り組んでまいりました。皆様方に盛り上げていただき、実り多い会に致したくお願い申し上げます。新世代の育成にポイントをおいて、青少年の明るい未来が拓ける一助になれば幸いです。

【ガバナー挨拶】**ガバナー****前 窪 貢 志**

皆様方にご心配をお掛け致しておりました当地区のバガナーエレクトが決まり、一つの山は越えました。是非とも本会議を盛り上げていただきますことをお願い申し上げます。

【ゼネラルリーダー挨拶】**ゼネラルリーダー****亀 岡 弘**

1990年代より、青少年の非行が社会的にクローズアップされており、今ではローティーンまで拡がり、避けては通れない問題となっています。今日は地域の有力者及び、教育評論家の尾木先生から色々なご意見を頂戴し、21世紀を担う若者の問題点と、若者の進む道を切り拓いていただきたい。

【地区役員紹介】**ゼネラルリーダー****亀 岡 弘****【地区委員紹介】****I . M . 委員長****浦 武 宏****【来賓挨拶】****和歌山市市長****大 橋 建 一**

I . M . 3組の開催を心よりお慶び申し上げます。和歌山市は「教育のパワーアップ」に力を注いでおり、保護者の方々には「子供は大人の振りを見ながら育つ」よって「親（大人）が行動に責任を持って欲しい」と常々言っております。又、成人式には「夢を持ち続けて欲しい」「地球環境を守る事を心掛けて欲しい」の二つを言いました。何れに致しましても、大人が模範になる事が大事であります。

**【参加クラブ出席報告】****登録委員長****中 芝 康 順**

和歌山9 R . C . 会員総数 525名 出席者数 301名 (57 . 33%)

パネルディスカッション

テーマ「新世代に手を貸そう」

- 【パネリスト】 月山和男 (パストガバナー・和歌山R.C)
林秀晃 (和歌山市立紀之川中学校 校長)
須佐真理子 (和歌山市中学校PTA連合会 会長)
宇治健一 (株)オークワ 専務取締役 人事本部長)
【コーディネーター】 岡本 浩 (和歌山城南R.C 会員)



～ 青少年の現状に対する認識 ～

(岡本) 次世代の青少年の育成に際し、我々大人がどのような手を貸せるのか？
先ず、「青少年の現状に対する認識」を出発点として、どのような問題点を感じておられるのか？問題提起をお願い致します。

(須佐) 子供を持つ親として、皆様方の家庭にて子供の姿が見えていますか？ 家庭での会話はありますか？ 良い子過ぎていませんか？以上3点を問題提起いたします。

(林) 現在の小中学校の様子を踏まえ、体力が弱くなっている。あまり感動しない。自分で責任をとらない。人間関係がうまくいかない。の4点です。

(宇治) 企業にて人材を育成する立場より、職業感(どのような仕事がしたいのか)が希薄。道徳マナーが劣っている。コミュニケーション能力不足。ストレス対策(うたれ弱い、辛抱が無い)

(月山) 最近の若者に「キレル」「むかつく」という言葉が多く、全体的に耐える心(忍耐力)が落ちており、これが原因で社会問題を引き起こしている。しかしながら、このような状況に誰がしたのか？を、考えていただきたい。

～ 青少年に対する問題の原因は？ ～

(岡本) 各立場より色々問題提起していただきましたが、これら問題の原因は何か？背景に何があるのか？等にて、問題を深掘していきたく考えます。

(林) 先程、問題提起は致しましたが、全体の80～90%の子供は成長しています。目的さえあれば、子供達は自ら動いておりますので、子供達の潜在能力を發揮させてやっていないのが一因にあるのでは。

(月山) 生まれる子供の将来は、母親のお腹の中で決まっている。その後、親の後姿を見て育つが、母親も不平不満が多く、それが子供の非行に繋がっているのでは。親がネガティブ志向からポジティブ志向にならないといけない。

(須佐) 学歴社会が根強く、塾、習い事等にて子供は基より、親も忙しくなっている。そして、塾、学校、家庭にて良い子になろうとするが、それが爆発するとキレル。又、父親が教育に感心なさすぎる。

(宇治) 今は社会 / 家庭環境も変わってきており、昔以上に子供のしつけ、教育が重要になっているが、残業等にて親も十分な時間がとれないのでは。我社では自己申告制にて、適材適所にて働いてもらえるよう努力している。



~ 社会はどのような手を差延べることができるのか? ~

(岡本) では、我々大人が社会が、次世代の青少年に対しどのような手を差延べられるのか? それぞれのご意見をお伺い致します。

(須佐) 子供は言葉で言わなければ分かってもらえない。もっと子供に夢が持てるよう工夫が必要では。そして何よりも、親が責任を持って人間形成させなければならない。

(林) 自分が成功した経験を子供達に与えてやりたい。又、友達同士の間にて失敗をしながら学ぶ教育も行っていきたい。成功だけが学習ではなく、経験だけを目的とした授業もある。

(月山) 今の学校教育では、子供達に夢を持たせる教育がないのでは。もっと課外授業を行うべきでは。それと、近所付き合いを行って、他人から学ぶ事も大事である。



~ 地域社会への要望 ~

(林) 学校の様子を見ていただき、力を貸して欲しい。先輩達から意見を聞く機会を作り、子供達の目標を明確にさせてあげたい。

(須佐) 学校を地域に開放し、若い親達が色々と相談できる場を作る等、親のストレスを発散する場所(機会)が必要では。

(林) 学校はどんどん開放していききたいが、本当に来ていただきたい親が来ない。もっと共に悩み、共に語り合いたい。

(宇治) もっと親父は自信を持って、今までの経験、生き様、仕事ぶり等を子供に伝えてやれば良いのでは。



~ 最後に(まとめ) ~

(岡本) では、最後にそれぞれの立場にてまとめていただけないでしょうか?

(須佐) それぞれの家庭にて、家庭団欒の場に入れるルールを作っていただきたい。子育ては我慢が必要。地道な会話が必要です。

(林) 子供は親の言う通りには育たないが、親の行動を見て育っている。大人が夢を持って、その夢を子供に託して欲しい。

(宇治) 何故、この会社を選んだのか? どのような仕事をしたいのか? 家庭、学校、企業、それぞれの長所を活かしてやりたい。

(月山) おじいちゃん、おばあちゃんの手助けが得られるような、心の余裕が与えられる社会、家庭が必要では。それと、子供への挨拶のしつけが重要である。

特別講演 「学校と家庭と地域の役割」

教育評論家 尾木直樹氏

【プロフィール】

- ・ 1957年滋賀県生 57歳
- ・ 早稲田大学卒後、中学/高校教師，東京大学講師を経て現在に至る
- ・ 臨床教育研究所「虹」所長
- ・ 「放送と青少年に関する委員会」副委員長
- ・ 日本教師教育学会常任理事
- ・ 日本精神保健社会学会理事



～ パネルディスカッションを聞いての感想（補足）～

- ・ 全体的に温かみのある、血がかったパネルディスカッションであり、和歌山の土地柄が伺えるようであった。一言ずつ補足させていただくと
「挨拶」に関し、大人が子供達に声をかけていますか？と言いたい。
「子供は言う通りには育たない」という大前提が忘れられている。
大人が「夢」を語れていない（子供の問題は、大人の問題である）
「孤食」が増加している（1982年 22% 2000年 51%超）
- ・ 今は、家庭自体が溶解しており、今後は「地域での子育てサポーター」「家庭のルール作り」が重要となってくる。

～ 「目の前の子供達の実態から入っていくこと」が重要 ～

- ・ 「我が子の成長にあたり、どの様な力を付けて、どの様な姿に育てて欲しいか？」と言うアンケートをとった所、親の1位，2位は「心の痛みや、辛さが分かる人」「健康な身体と体力」であったが、学校の先生（PTA含む）は、「学力」が1位であった。

～ 授業時間を増やしても、学力は上がらない ～

- ・ これは、学校の先生が全く実態を把握していなく、文科省も間違った方向に動いている。
- ・ 3学期制から2学期制への変更，0時間目/7時間目の導入等、授業時間を増やしているが、授業時間を増やしても学力は上がらない。授業時間の1分1秒を大事にすべき。
- ・ 学校は、学力，体力，しつけ等、人間形成を行う所であり、学力だけであれば、塾，予備校の先生の方が教え方は上手い。
- ・ 沖縄は「学力向上対策委員会」を地域ぐるみにて推進しているが、成果がでていない。

～ 子供の学習意欲，やる気が見られない ～

- ・ OECD（32カ国）の学力調査では、日本は1位，2位の学力であるが、家庭内学習時間が非常に少なくなっている。家庭内学習をしない子供が、中学生にて20%，高校生にて44%。又、家庭内学習平均時間もここ10年間にて大幅に落ちている。
- ・ 何が背景なのか？ 一生懸命勉強しても、良い暮らしが出来ない。大企業に就職しても先が見えない。「今を我慢して10年後20年後に備える」のはナンセンスであり、今を充実させて生きる。という高校生が大半である。

～ 共感できる関係、受け止める関係 ～

- ・ 子供と大人の間を、どの様にして受け止めてやれば良いのか？
地域が受け止める（学校の中に地域が入っていき、共同センター化を図る）
何事にも「どうしたの？」から始める（言い訳をさせてあげる）ことにて、共感できる関係、受け止める関係ができ、元気にパワフルに、明るく問題解決が図れます。

閉会式

【講評】

ゼネラルリーダー

亀岡 弘

- ・ 今日の I . M . は何も言うことがないくらい素晴らしい会議であった。
- ・ 家庭，学校，地域の連携が必要であることが、痛切に感じましたし、尾木先生の講演も、ユーモアを交え、大変良い提言をいただいた。
- ・ 今の若い人に気迫が感じられない。もっと夢を追い続けて欲しい。
- ・ 失敗を繰り返す、その失敗の原因追求があってこそ成功の道が開ける。
- ・ 「夢を持つ、大志を抱く」ことを若い人に教えていきたく考えていますので、皆様も今日の I . M . を有効に利用していただきたい。



【総評及び次回ホストクラブ紹介】

ガバナー

前 窪 貫 志



- ・ 皆様ご苦勞様でした。先ず、和歌山城南 R . C に御礼申し上げます。
- ・ 「子供は大人の鏡」をロータリーに置換えますと「ロータリアンはロータリーの鏡」。非常に役に立つ言葉であります。
- ・ 今日の話の内容が我々にできるのか？ 今後にかされるか？ 是非とも活かして欲しい。

【次回ホストクラブ会長挨拶】

和歌山アゼリア R . C

磯 本 博 良

- ・ クラブ創設 7 年目にて I . M . ホストの大役を頂戴しますが、全員一丸となって挑戦させていただきます。和歌山にユニークなクラブを作ろうと誕生したのが当クラブです。現在、男性，女性各 25 名であり、「女性の会員の感覚」にて次年度 I . M . を開催させていただきます。



【閉会の挨拶】
【手に手つないで】
【点 鐘】

I . M . 副委員長
ソングリーダー
ホストクラブ会長

川 崎 行 彦
川 嶋 平 和
寺 坂 雄 次



- 以 上 -



【記録 和歌山城南ロータリークラブ】

I . M . 実行委員長 浦 武宏
会長 寺坂 雄次

I . M . 記録委員長 原戸 俊和

I . M . 写真委員長 瀧口 博士